

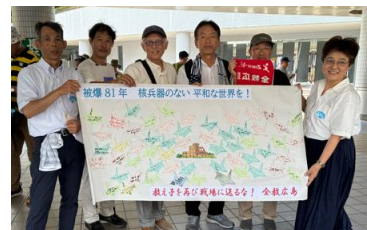
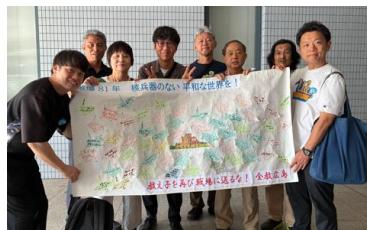
原水爆禁止2026年世界大会

核兵器のない平和で公正な世界を

希望をきりひらくため新たな決意で行動に立ち上がろう



ヒロシマデー集会の様子(上)と全教広島からの参加者(右が4日、左が6日)



原水爆禁止2026年世界大会は、8月3日の国際会議からスタート。「被爆者の訴えに真摯に耳を傾け、人類を核破局から救うために緊急に行動しよう」と呼びかける国際会議宣言を採択しました。

続く4日の広島開会総会には、被爆者、各国政府代表、国内外の運動代表

が集い、「共同を発展させ、核兵器のない世界への展望を切りひらく」と訴えました。

6日には、ヒロシマデー集會が開かれ、会場に3400人が参加し、706人がオンライン視聴しました。中満泉軍縮担当上級代表は、「核兵器を廃絶する力と責任も私たちは持っている」と集會を激励。メキシ

コ政府代表のマルティネス外務副大臣、玉城デニー沖縄県知事、日本女医会の前田佳子会長らが連帯挨拶。広島市の被爆者伊藤正雄さんが被爆体験を証言しました。

現地広島から訴えでは、広島県被団協の佐久間邦彦理事長が「日本政府は禁止条約の批准を」と訴えました。また、昨年に続き、執行委員の宇城さんが教えずとともに合唱曲となった「わたしのねがい」を披露。全教広島の仲間も登壇・応援しました。

最後に「『核兵器のない平和で公正な世界』への希望をきりひらくため、新たな決意で行動に立ち上がる」と訴える「広島からのよびかけ」を採択しました。

国際会議には書記局から要員として参加。世界大会には全教広島から延べ30名が参加。ジャンボよせがきには県内各地から56のメッセージが寄せられました。

あらくさ

日本人は、我慢することを美德とする民族。かつて、そのようなことを言い遣した作家がいる。確かに、島国という限られた土地の中で暮らす我々は、「武士は食わねど高楊枝」と質素儉約で過ごし、「欲しがりません勝つまでは」のスローガンの下で戦時中を耐えてきた。「耐え難きを耐え、忍び難きを忍び」という言葉にも、本質は隠れているのかもしれない。

しかし、そんな我々は、何時まで我慢すれば良いのだろうか。終わりの見えない物価高騰、それに見合わない賃金、国民の生活を守るべき立場の政治も、何か歯車が狂っている。一昔前と比べても、「刹那主義」と呼ばれる考え方がすでに定着してしまった。今この瞬間さえ良ければよい、確かに今を生きている我々にはそれで良いのかもしれない。でも、その先には何が残るのか？何が待っているのか？それを考えていくことは、今を生きている我々に課せられた責務と言える。

平和について考える八月、我々に何ができるのかを考える八月。とは言ったものの、涼しい場所です頭を冷やしてのんびりしたい。

(U)

平和・核廃絶を求める歩みを止めるな！！

国民平和大行進

東京↓広島コースは7月26日に福山入り。富山↓広島コースは30日に三次入り。長崎↓広島コースは8月2日に大竹入りして4日に原爆ドームをめざして集中行進を行いました。

連日、熱中症警戒アラートが発令される中でしたが、行進の時刻を11時までと16時以降にし、救護車や飲み物の準備などの対策をし、大きな事故なく実施されました。

4日、原爆ドーム間前には200人が集結しました。通し行進者のお一人、愛知から参加の三浦コト子さんは、「被爆者が傷ついた体で逃げたその道を、思いを想像しながら歩いた」と話されました。集会の最後に神戸県労連議長のリードで「核兵器なくそう」「日本政府は核兵器禁止条約に参加せよ」「憲法9条を守ろう」などとシュプレヒコールを上げました。7月26日以降、全教広島から延べ30名が行進に参加しました。



福山(右上)、尾道(左上)、安佐南(右中)、府中(左中)、ドーム前集結集会(下)

似島年少のつどい



似島小体育館での集合写真

8月5日には、今年で50回目となる似島年少少女のつどいを実施しました。市教組(全教)の組合員やOBを中心に18名のスタッフが、全国から75名を迎え、6グループに分かれて、加害と被害の跡を残す似島を案内しました。また、似島小学校の体育館をお借りして、昼食、交流会を行い、グループごとで感想や活動の交流をしました。福島から参加の小学5年生は、「学校で習った「戦

争」というのは、ほんのごく一部で、実際に見たり聞いたりすることで、そこどんなことがあったのかを知り、感じる事ができました。これ以上、同じ過ちを繰り返さないように、絶対に戦争をしないように、私たち子どもが理解をして、これからの100年後も伝えていかないとけないなと考えました。」との感想を残しました。



1万人を超える被爆者が運び込まれた棧橋を見学

教職員平和のつどい

8月5日の夕方からは、広島ロードビルを会場に全教・教組共闘主催の「教職員平和のつどい」が開催され、各地の青年教職員を中心に50名が参加し、世界大会に参加した思いや感想、日頃の実践などについて交流を深めました。つどいの冒頭の学習では、山本書記次長が「似島



軍都広島と似島の関係について説明する山本書記次長



平和への願いを書いたボードを持って集合写真

少年少女のつどい」のとりくみについて解説。その後、全教広島の記事やOBらが準備したおでん、ポテトサラダ、おむすび、お好み焼きなどを味わいながら、アルコールも入れて楽しく交流。最後には「『みんななかよく』の言葉を、子どもだけでなくすべての人に届けたい」など思いのメッセージを書いたボードをもって集合写真を撮りました。全国の仲間が平和への思いを共有したつどいとなりました。

みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい

教育研究全国集会2026 in 愛知に3500人

子どもたちのゆたかな成長・発達を保障するとりくみを職場・地域から広げよう

教育のつどい2026は、8月21日から3日間、愛知県内で開催され、開会全体集会と5つの教育フォーラム、19の分科会に、のべ3500人を超える保護者、市民、学生、教職員の参加で大きく成功しました。岡野八代さん（同志社大学）による記念講演「政治をアップグレードするー憲法、ジェンダー、個人の尊厳から」で



全体会ステージと岡野八代さん



は、ケアが権力によって家庭に押し付けられ、蔑まされている現状を示し、ケアを保障するため労働時間の短縮の必要性を訴えました。憲法が個人の尊重を保障していることを認識し、ジェンダー平等の実現につながるとりくみが呼びかけられました。

5つのテーマで行われた教育フォーラムには約560人が参加し、今日の学校現場におけるさまざまな悩み、困難にこたえる有意義な討論が展開されました。

分科会では、さまざまな観点からの、ゆたかな実践が報告・交流されました。学習指導要領の押しつけに抗して、子どもたちが本当に学びたいことは何かを考えながら、創意工夫をこらして授業をすすめるとりくみ、ICTやAIの活用についても多角的な検討が行われました。子どもたちが自ら体験し、それをふまえて自分事として考え、行動することの大切さや、「書く

こと”が子どもの発達に与える重要な意義が確認されました。

全教広島から レポーター5名含む 11名が参加 学びと交流深める

全教広島からは、レポーター5名を含む11名が参加し、学びと交流を深めました。感想の一部を紹介します。

■デジタル教科書や、デジタル教材によって学習指導要領の拘束が一層強まること、授業の画一化、定形化が促進されること、こどもからも教師からも学ぶ喜びを

奪うということが恐ろしいと思いました。音楽分科会での学びから、目の前のこどもたちをまると受けとめ、自分の頭で考え、五感をフル回転させて、音楽でこどもたちに語りかけていく力を持ちたいと思います。ワクワクした喜びあふれる授業を創造していきたいです。

■多様性を大事にし、ひとりひとりの命と権利が保障される社会を、これから生きる子どもたちといっしょに作っていくためには、人材育成の教育政策に対抗しなければなりません！

マイノリティと呼ばれる方々、保護者、教員、給食調理員、現業職員などそれぞれの視点でど

の子も喜んで通える学校づくりがレポートされ、視野が広がりました。

その一方で（中略）全国的にスクールソーシャルワーカーの配置は不十分なのがよくわかりました。スクールソーシャルワーカーの配置は組合の要求課題だと思います。

■私は、社会科分科会に参加しました。（中略）その中で、「戦争体験者が少なくなる中で体験の継承をどうするか」「学びをどう発信し学校全体や社会に繋げていくか、そのためには色々な人やモノに教師自身がつながることが大切」等が確認されました。

「全国のつどい」は、私たちの道しるべであるし、全国の仲間から元氣・勇氣・希望がいただける場です。11月14日に行う広島での『つどい』がそのような場になるよう頑張りたいと思います。



初日夜の交流会とレポーターのみなさん



専門部要請・懇談

それぞれの立場からの
具体的な要求かけ
改善もとめる

8月25日、広島県教委との専門部要請・懇談を実施しました。女性部、養護教員部、障害児教育部の部長と執行部を中心に16名が参加。県教委からは、教職員課を中心に、施設課、教育改革課、特別支援教育課、働き方改革課等の担当者が対応しました。



(写真上から)女性部、養護教員部、障害児教育部
グラフを提示し訴える女性部

女性部は、安心してゆとりを持って働くため、今年度のアンケートをもとにした現場の願いを訴えました。「スクールサポートスタッフや講師の増員」「会計を専門でしてくれる人の配置」「ICT加配」等の要求を行いました。入退校記録では「アンケートでは80%近い教員が休日出勤でも記録していない」と実態を指摘し、改善を求めました。また、女性の権利が拡充してもそれを取りやすい職場改善の実現が必要であること、「特別教室や体育館へのエアコン設置を早急に」と訴えました。

養護教員部は、子どもたちを取り巻く問題が年々増える中で、子どもとゆとり関わることでできる保健室の重要性を主張し、「小規模校でも必ず養護教諭を配置してほしい」「複数配置の基準を下げてほしい」と訴えました。また再任用採用については、全県でハーフ2人で1校への配置が1校しかないことを指摘し、大規模校への加配等の制度の改善を要望しました。また、宿泊行事への養護教諭の参加を当然視する管理職への指導を要求しました。

障害児教育部は、「空き時間に授業準備をしたい」と言うと、空き時間ができたら学級の児童につくべきだ」と言う校長の実態を指摘し校長指導を要求しました。次に、免許外申請を当然視せず、特別支援学級への配慮をした十分な人配や授業時数を減らすための人員増の必要を訴えました。そして、負担は減らないのに「給料の調整額」の減額の矛盾を指摘。また、障害児学級担当者の負担軽減のために報告文書の簡素化等を要望しました。

懇談の中で出されたことは、今後の施策や予算要望に生かしてほしいこと、確定交渉に向けて改善できることを検討してほしいと要請しました。

佐伯支部定期大会

困ったこと、疑問があれば、
一人で抱えず相談を
組合として管理職や市教委へ申し入れも

8月25日、廿日市市中央市民センターで佐伯支部定期大会が行われ、10名が参加しました。船石執行委員長が参加し、世界規模での環境破壊、ドンロー主義なる言葉でトラップ大統領が行っている外交の危険さ、日本の憲法・平和を守るたたかいなどについて



定期大会に集まった佐伯支部の仲間

の情勢分析を含めたあいさつがありました。

執行部からの各種報告の後、各校の様子について交流しました。

- ◆特別支援学校高等部の男性教員の少なさの中で困難を感じる人が多い。
- ◆勤務校では、自由進度学習より、基礎基本の学習にしっかりと取り組んでいる。
- ◆昨年の多忙さを踏まえ、管理職に現状を伝え、今年度は分掌が減り授業にじっくり取り組みめる。
- ◆チーム担任制や午前中5時間授業に昨年から取り組んでいるが、落ち着かず、指導が行き届かない。
- ◆小規模校でのチーム担任制は、担任は変わらず、低・中・高でチームを組み交換授業をしている。チーム担任制にも学校によって様々。など。

今後の方針の中で、佐伯支部の事務所について、エアコン、冷蔵庫、パソコンなどが相次いで故障し、不便になったことを踏まえ、事務所を引き払うことが提案され了承されました。今後は市民センターなどを借りて活動します。事務所を閉じて、市民センターなどを借りて活動を継続していくと確認し合いました。